

# 中上級学習者のための音声を利用した漢字語彙テストの試み —上級漢字力診断テストの開発に向けて—

加納 千恵子 魏 娜

## 要 旨

2013年に実施したWEB版中級漢字力診断テストの結果から、漢字圏・非漢字圏学習者にとって共通の困難点と認められた漢字語彙の用法問題、および漢字の音声処理問題を参考に、新たに中上級学習者のための音声を利用した漢字語彙テストを開発した。本稿では、音声を利用したこの漢字語彙テストを、2016年度春学期に筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）日本語教育部門で開設した上級漢字クラス（補講漢字8）および中級漢字クラス（補講漢字6・総合漢字6）において、クイズおよび期末テストと並行して実施した結果について報告する。そして、このような音声を利用した漢字語彙テストを上級日本語学習者のための漢字力診断テストに使用する可能性についても考察する。

【キーワード】 漢字力診断テスト 中上級日本語学習者 音声 漢字語彙

## Trial Kanji Vocabulary Test Using Sound for Intermediate and Advanced Level Japanese Language Learners: to develop the advanced level diagnostic test of kanji ability

KANO Chieko, WEI Na

**【Abstract】** From the results of the web-based diagnostic tests of kanji ability for intermediate level Japanese language learners we conducted in 2013, test questions concerning kanji vocabulary usages and auditory processing were found to be difficult for both learners with and without kanji backgrounds. In this paper, the authors report the results of trial kanji vocabulary tests using sound, which were conducted in different levels of kanji classes (Kanji 8, Kanji 6, and Kanji 6 for short-term exchange students) during the spring semester of 2016 at the Center for Education of Global Communication (CEGLOC), the University of Tsukuba. The authors analyze and discuss on the results and examine the possibility of using this type of test for accessing the kanji ability of advanced level Japanese language learners.

**【Keywords】** Diagnostic test of kanji ability Advanced-level Japanese language learners Sound Kanji vocabulary

## 1. はじめに

日本語の漢字は、字形、読み、意味、用法という4つの情報を担う表語文字であるため、単に字形と読みの連合を覚えるだけでは適切に運用できるようにならない。したがって、従来のような漢字の読み書きテストだけでは、漢字学習の成果の到達度をみることはできても、学習者の弱点や困難点を明らかにし、その後の学習をさらに効果的にするためのフィードバックを与えるような診断的評価としては十分ではないことが指摘され、複数の評価軸からなる漢字力診断テストが開発された<sup>1</sup>。現在この漢字力診断テストは、初級用と中級用がオンライン化され、筑波日本語テスト集 (TTBJ=Tsukuba Test-Battery of Japanese; <http://ttbj.jp>) の一部として公開されている (加納・魏 2014)。

2013年度に実施された漢字力診断テストの結果<sup>2</sup>によると、初級レベルにおいては、非漢字圏と漢字圏で、得意な部分と不得意な部分に歴然とした違いが見られるが、中級レベルになると、むしろ共通する困難点も見られ、漢字圏・非漢字圏を問わず、漢字語彙の用法を問う問題および音声処理能力を問う問題において、できる者とできない者との間に正答率の差が顕著に出ている。

そこで本稿では、2013年2月～3月に国内の漢字圏・非漢字圏学習者に実施した中級漢字力診断テストの結果、および2013年6月～10月に海外 (韓国とメキシコ) において実施した中級漢字力診断テストの結果を分析・考察し、その結果を参考に開発された、音声を利用した漢字語彙テスト (以下、漢字音声テスト) について考察する。また、2016年春学期にグローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC) の日本語教育部門で開設した中級漢字クラス (補講漢字6・総合漢字6) および上級漢字クラス (補講漢字8) においてこの漢字音声テストを実施した結果について報告し、このようなテストを上級レベルの漢字力診断に使用する可能性について検討する。

## 2. 漢字語彙力と中級漢字力診断テスト

表語文字である日本語の漢字の学習について考える際には、Nation (2001) の外国語学習における語彙知識の考え方が参考になる。Nation (2001) は、語彙の知識を受容と発表という2つの言語運用モードに分けた上で、それぞれを(1)語の形式的知識、(2)語の意味に関わる知識、(3)語の用法的知識の3つに分け、さらに各知識を以下のa、b、cのように分類している。

- (1) 語の形式的知識：a. 発音、b. 綴り、c. 品詞
- (2) 語の意味に関わる知識：a. 形態と意味、b. 概念と意味、c. 連想
- (3) 語の用法的知識：a. 文法的機能、b. 意味的共起性、c. 使用上の制約

これを日本語の漢字 (漢字語) の知識に当てはめて考えると、以下のように考えられる。

- (1) 漢字の形式的知識：a. 読み、b. 字形、c. 品詞
- (2) 漢字の意味に関わる知識：a. 形態と意味、b. 概念と意味、c. 連想
- (3) 漢字の用法的知識：a. 文法的機能、b. 意味的共起性、c. 使用上の制約

従来の漢字の読み書きテストは、(1)のaとbおよび(2)のaの知識の連合ができているかどうかを見ることに重点が置かれていた。しかし、漢字語彙を日本語の中で適切に運用できるようにするためには、(1)のcに相当する漢字の品詞性や(2)のbとcに相当する概念的なネットワーク知識（上位語と下位語、同位語の関係、対義語や類義語など）が不可欠であろう。さらに、(3)のa、b、c、に相当する漢字の文中での用法、コロケーション、使用上の制約なども重要な知識であると考えられる。

現在公開されている中級漢字力診断テストは、加納ほか（1993）で事前テストとして開発された漢字力診断テストを改編してWEB化したものである。漢字の運用力を意味理解、読み、書き、語彙の用法、音声による漢字処理という5つの評価軸について評価し、受験者にフィードバックすることを目的としている（加納・酒井 2003、酒井・加納・小林 2015）。初級用と中級用でテスト項目に若干の違いはあるが、12のテスト項目を設定し、各10問、合計120問の問題を備えている。中級漢字力診断テストのテスト項目は以下のようになっている。

- ①反義の漢字・漢字語彙を選択する問題
- ②漢字語の意味の語構成を理解する問題
- ③漢字語彙の読みを選択する問題
- ④同音の漢字を選択する問題
- ⑤漢字語彙の表記を選択する問題
- ⑥漢字の構成要素（部首）を選択する問題
- ⑦漢字の送り仮名を選択する問題
- ⑧漢字語彙の品詞性を識別する問題
- ⑨文法情報・意味的共起性により文中の適切な漢字語彙を選択する問題
- ⑩漢字・漢字語彙のグループに入る漢字を選択する問題
- ⑪漢字語彙を音声で聞いてそれらに共通する漢字を選択する問題
- ⑫漢字語彙の意味説明を音声で聞いて相当する語彙を選択する問題

上記の①と②は漢字の意味理解、③と④は読み、⑤と⑥は書きに相当する問題であり、⑦～⑨は用法、⑩は意味概念ネットワークの問題と言える。最後の⑪と⑫は、従来の漢字テストが読み書きの技能だけに限定されていたのを改め、音声による聴解と漢字語彙知識との連合を見ることを試みたテスト項目となっている。

### 3. 中級漢字力診断テストにみる学習者の困難点

本稿において分析・考察の対象とするのは、2013年に実施された漢字に関する Can-do statements 調査と並行して行われた WEB 版の中級漢字診断力テストの結果であり、その調査概要は、以下のようであった<sup>3</sup>。

調査1：

調査時期：2013年2月～3月

調査場所：筑波大学留学生センターおよび国内の日本語教育機関

調査対象：非漢字圏 22名 (内訳：ロシア語母語話者4名、タイ語3名、カザフ語2名、ポルトガル語2名、シンハラ語2名、マレー語2名、リトアニア語1名、スペイン語1名、ラオス語1名、ミャンマー語1名、その他3名)

韓国 10名

漢字圏 84名

合計 116名

調査内容：中級漢字力診断テスト

調査2：

調査時期：2013年6月～10月

調査場所：メキシコの大学および語学校

韓国の大学

調査対象：メキシコ 38名

韓国 43名

合計 81名

調査内容：中級漢字力診断テスト

実際には、調査1の調査協力者は120名、調査2の調査協力者はメキシコ50名、韓国60名であったが、WEBテストの動作環境等のために欠損データとなった者を除き、また中級以上の学習者の結果を分析対象とするため、同時に行った漢字 SPOT50 テスト<sup>4</sup>の正答率が50%以上だった者のみを選んだ結果、上記の人数となった。

#### 3.1 調査1と調査2における漢字 SPOT テストの結果

調査1の調査協力者116名および調査2の調査協力者81名に対して、漢字語彙の運用力全体を調べるためにWEB版漢字 SPOT50を実施した。その結果を図1と図2に示す。

図1は、調査1の協力者116名を出身属性によって非漢字圏、韓国、漢字圏の3グループに分け、それぞれのグループで漢字 SPOT50 の正答率が「100%～90%」、「89%～80%」、「79%～70%」、「69%～60%」、「59%以下」であった者の人数のパーセンテージを横棒グラフで示したものである。図1の分布をみると、非漢字圏学習者では漢字 SPOT50 の得点が70%台に最も多く集まっているのに対して、韓国と漢字圏の学習者では90%以上の者が最も多く、天井効果を生じていた可能性がある。116名の漢字 SPOT50 の平均正答率は、非漢字圏が73%、韓国が90%、漢字圏が87%であった。

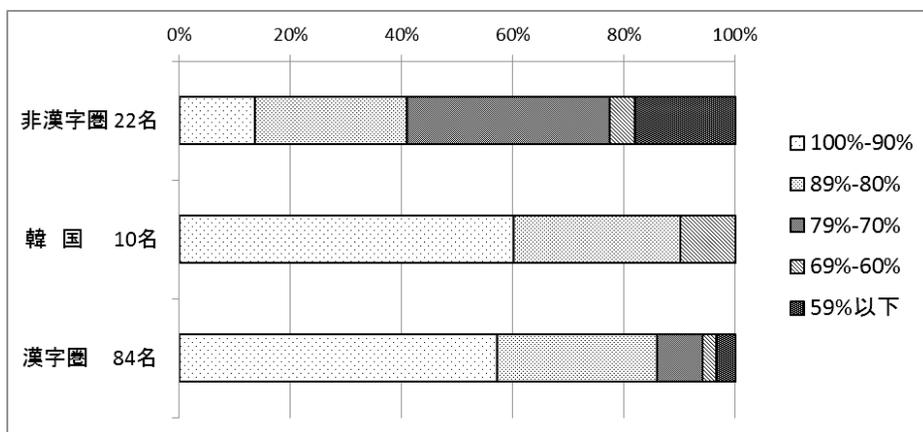


図1 調査1：国内協力者（116名）の漢字 SPOT テスト結果

調査2の調査協力者81名（メキシコ38名、韓国43名）に実施した同じ漢字 SPOT50 の結果を横棒グラフで示したのが図2である。図2の分布をみると、メキシコでは漢字 SPOT50 の得点が59%以下に最も多く集まっており、韓国でも60%台が最も多かった。海外の調査協力者の漢字 SPOT50 の平均正答率は、メキシコが57%、韓国が71%と、国内の調査協力者に比べると全体に低かったことがわかる。

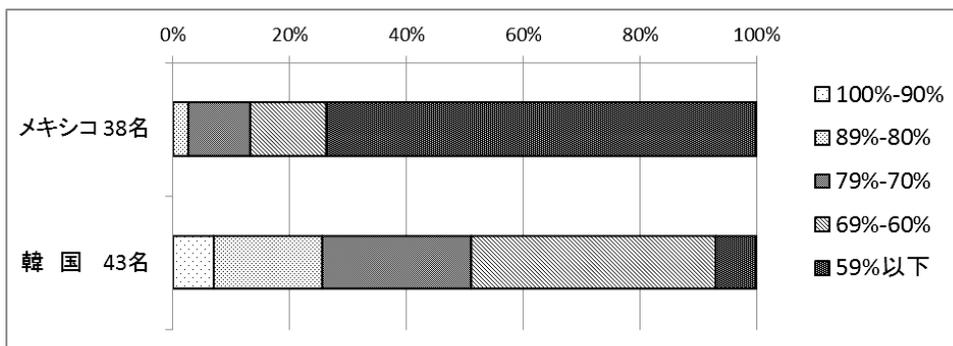


図2 調査2：海外協力者（81名）の漢字 SPOT テスト結果

今回調査1で対象とした国内学習者群は、調査2で対象とした海外学習者群に比べて日本語能力が高い集団であったと考えられるが、国内にいる学習者が日常的に普通で話される日本語の音声に慣れているのに対して、海外ではそのような速度の聞き取りに慣れていないことも正答率が低くなった一因である可能性もある。

### 3.2 調査1と調査2における中級漢字力診断テストの結果

調査1の調査協力者116名の中級漢字力診断テストのグループ別の結果を表1と図3に示す。①～⑫のテストセクションのうち、⑩の漢字(語)のグルーピングを問う問題では、意味のグループだけではなく、読み、字形、品詞など多種多様なグループが出題されており、評価項目として一つに絞るのが難しいため、今回の分析対象から外した。

そこで、表1には、⑩を除いた11項目、すなわち①反義漢字の問題、②語構成の問題、③読みの問題、④同音漢字の問題、⑤部首の問題、⑥品詞の問題、⑦送り仮名の問題、⑧文中の語彙選択問題、⑨音声で聞いた語彙に共通する漢字を選ぶ問題(音声1)、⑫音声で聞いた意味説明から漢字語を選ぶ問題(音声2)の平均得点(各10点満点)を示す。

表1 調査1：国内協力者(116名)の中級漢字力診断テスト結果

調査協力者	① 反義	② 語構成	③ 読み	④ 同音	⑤ 書き	⑥ 部首	⑦ 品詞	⑧ 送仮名	⑨ 文中 用法	⑪ 音声1	⑫ 音声2
非漢字圏 22名	9.2	9.4	9.5	7.7	9.9	7.5	8.6	9.1	9.4	9.9	7.4
韓国 10名	9.8	9.7	9.9	7.8	9.9	8.4	9	8.9	8.8	10	8.2
漢字圏 84名	9.8	9.7	9.4	7.4	9.7	9.3	8.2	8.1	8.5	9.5	7.4

それをグラフにしたものが図3である。

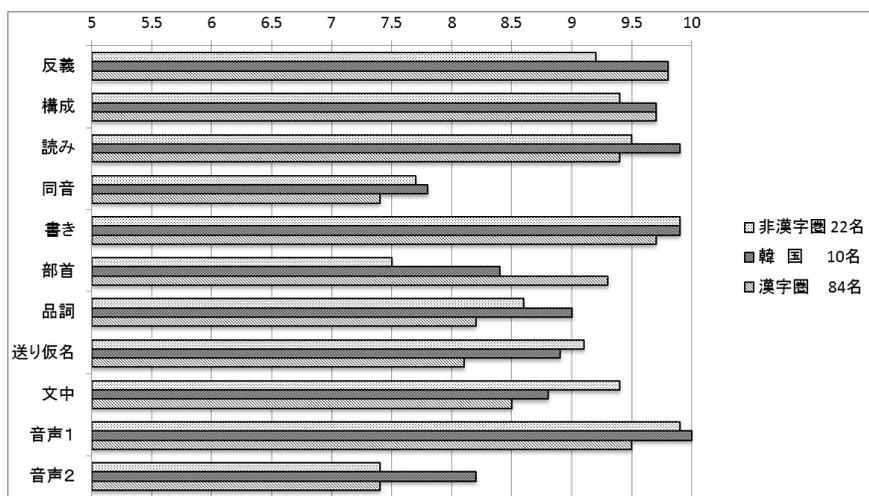


図3 調査1：国内協力者(116名)の中級漢字力診断テスト結果

全体的にみると、漢字の意味理解の問題（①と②）が漢字圏学習者にとって容易であることは想像に難くないが、韓国や非漢字圏の学習者であっても、中級レベルになると、高い正答率を示していることがわかる。また、漢字の読みの問題（③）では、どのグループも正答率が高くなっているのに対して、同音の音読みを問う問題（④）はどのグループも正答率が低いという結果になっている。一言で「漢字の読み」と言っても、実際にはその種類や問題の形式によって結果が異なることがわかる。書き問題でも、単純な漢字表記の選択問題（⑤）はどのグループもできている。実は非漢字圏学習者や韓国の学習者は、一般に漢字の書きに対する苦手意識が強く（加納・魏 2015）、用紙版の漢字力診断テストで実際に書かせてみると、確かに書きが弱いことは明らかではあるが、4肢選択のWEBテストではほぼ満点に近い点数を取っている。ただし、漢字を再生する際に細部にわたって字形の識別ができるかどうかをみるという目的で出題された部首の問題は、漢字圏以外のグループにとっては難しい問題となっていた。

しかし、漢字の品詞性や送り仮名、文中での連語知識等を問う用法の問題（⑦⑧⑨）になると、漢字圏グループの方が非漢字圏や韓国のグループよりテストの正答率が低かったことがわかる。音声を利用した問題（⑪と⑫）においても、漢字圏グループは非漢字圏や韓国のグループよりやや結果が良くなかった。

このように、中級レベルにおいて、どのグループの学習者にとっても正答率の低かった問題として目立っているのは、同じ音読みの漢字を選択する問題（④）と音声で意味説明を聞いて語彙を選ぶ問題（⑫）であった。また、全体の平均正答率が高かった漢字圏グループにとっては、文中での用法の問題が弱いことも特徴的であると言えよう。

次に、調査2として海外で行った81名の調査協力者の中級の漢字力診断テストの結果を表2と図4に示す。

表2 調査2：海外協力者（81名）の中級漢字力診断テスト結果

調査協力者	① 反義	② 語構成	③ 読み	④ 同音	⑤ 書き	⑥ 部首	⑦ 品詞	⑧ 送仮名	⑨ 文中 用法	⑪ 音声1	⑫ 音声2
メキシコ 38名	6.2	7.5	9.2	5.7	9.6	6.7	7.5	7.7	5.6	9.4	5.1
韓国 43名	8.7	9.3	9.4	5.6	9.7	7.1	8.0	7.4	8.2	9.5	7.9

海外の非漢字圏学習者（メキシコ）にとっては、漢字の読み問題（③）や書き問題（⑤）が出来ていても、漢字の意味理解の問題（①と②）が難しいという結果になった。一方、韓国の学習者は意味理解の問題も読み書き問題もよくできていた。ただ、漢字の部首を選ぶ問題は、メキシコと韓国、どちらの学習者も正答率が高くない、国内の協力者と同様であった。そして、品詞や送り仮名、文中での連語知識等を問う用法の問題（⑦⑧⑨）

においても、メキシコと韓国、どちらの学習者も国内の同じグループの学習者と比べると出来がよくなかった。音声を利用した問題(⑪と⑫)においては、国内の学習者と同様に、音声1の問題の方が音声2の問題よりよくできていた。これらの結果をグラフにしたのが図4である。

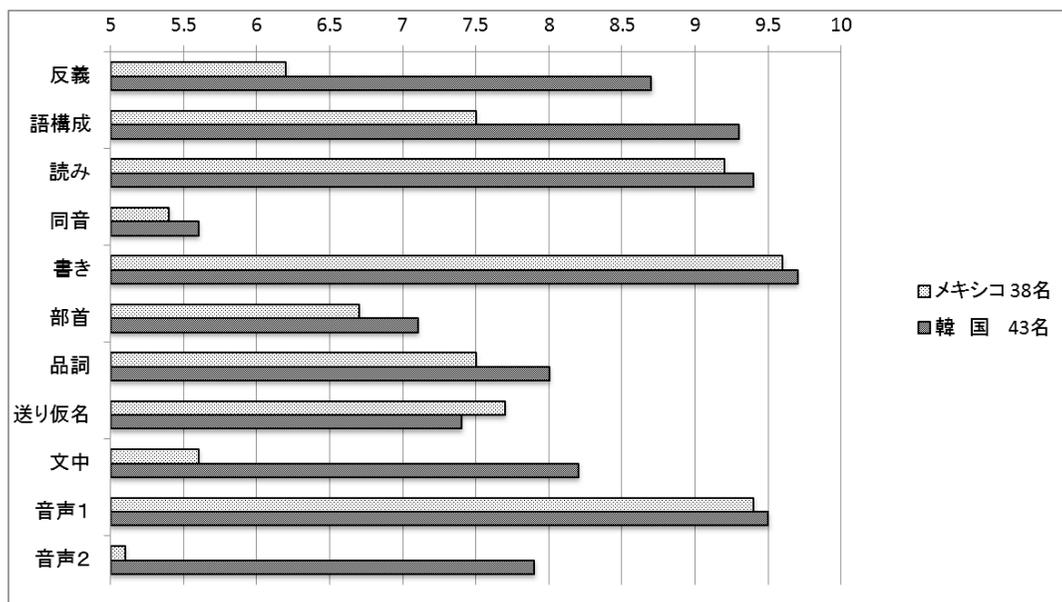


図4 調査2：海外協力者（81名）の中級漢字力診断テスト結果

国内の学習者（図3）と同様に、どちらのグループの学習者にとってもまだ十分に来ていない項目として、同じ音読みの漢字を選択する問題（④）と音声で意味説明を聞いて語彙を選ぶ問題（⑫）が挙げられる。文中の用法を問う問題（⑨）については、調査1（国内）では3群の中で最も漢字SPOTテストの平均正答率が低かった非漢字圏群が最もよくできたという結果であったが、メキシコ（海外）の学習者は日本語運用力全体がかなり低かったため、そのような結果にはならず、文中の用法が難しいという結果となった。一方、韓国の学習者の結果をみると、国内の韓国グループの結果のグラフ（図3）とほぼ同様の形になっていることがわかる。

以上の中級漢字力診断テストの結果から、国内・海外を問わず、漢字圏、非漢字圏、韓国のいずれの中級日本語学習者にとっても、同音の漢字の問題および音声を利用した漢字語彙の意味理解問題が難しいということがわかった。また、中級以上の学習者にとっては、漢字を見て意味理解を行う問題や単なる読み問題、書き問題だけでは天井効果が生じる可能性が高いこともわかった。韓国の学習者の結果をみると、国内・海外を問わず、診断テストの結果には共通の傾向が読み取れたが、非漢字圏学習者については、海外（メ

キシコ)の学習者の日本語運用力が低かったため、国内との差異が見られた。漢字圏学習者については、中国での調査を実施していないため、国内と海外とで同じ結果になるかどうかはまだ不明であるが、国内の結果において、漢字・漢字語の文中での用法の問題が難しいことが読み取れたため、上級者を対象とする漢字力診断テストにおいて用法の問題および音声を利用した問題が有効であろうという予想を立てた。

#### 4. 音声を利用した漢字語彙テストの作成

3節で述べたように、国内および海外において実施された中級漢字力診断テストの結果から、中上級から上級の学習者の漢字力診断のためのテスト問題として、音声を利用した漢字語彙の問題、特に音読み語の理解問題、そして文中で漢字語彙の用法を問う問題などが有効であろうと予想できたため、音声を利用した音読み語の理解問題を上級者向けの新たな形式のテストとして考案し、2016年春学期に筑波大学グローバルコミュニケーション教育センターで行われた中級後半レベルと上級レベルの漢字クラスにおいて、通常の小テスト(クイズ)とともに実施した。

##### 4.1 実施クラスのレベルとテストの形式

本センターの日本語教育部門では、本学の研究留学生および大学院生等を対象とする補講日本語コースと、協定校から来日する短期留学生(学部レベルの特別聴講学生)を対象とする総合日本語コースを開設しており、補講日本語コースには、初級日本語(補講日本語1~3)、中級~上級の技能別日本語(補講日本語4~8)が開講されている。それらと並行して、週1コマの選択漢字クラスも8レベル(補講漢字1~8)開講されている。また、総合日本語コースにおいても同様に、週1コマの選択漢字クラス(総合漢字1~8)が開講されており、今回音声漢字テストを行ったのは、筆者が2016年度春学期に担当した中級後半の漢字クラス(補講漢字6-1Aと総合漢字6A)、および上級漢字クラス(補講漢字8A)である。

中級後半の漢字クラスにおける使用教材は、凡人社の『Intermediate Kanji Book vol.1』(以下、IKB 1)の第6課~第10課である。学習する課の番号が上級のクラス(補講漢字8)と偶然同じになっているが、こちらのテキストは中級段階における漢字語彙学習上の要点に基づいた課立てとなっている。今回、授業期間の後半に小テストに併せて作成、実施した漢字音声テストは、8課(漢字の音訓)と9課(同訓語)であった。期末テスト時に実施した漢字音声テストの問題は、各課の漢字音声テストと重なっているため、今回の分析対象とはしない。

上級漢字クラスにおける使用教材は、凡人社の『Intermediate Kanji Book vol.2』(以下、IKB 2)であり、2016年度春学期の学習範囲は、6課(地震)、7課(火山)、8課(経

済)、9課(金融)、10課(歴史)という5課であった。こちらはIKB1とは異なるトピックベースの漢字教材であり、今回は授業期間の後半に8課と9課の小テストおよび6課～10課の期末テストに合わせて漢字音声テストを作成し、実施した。ただし、期末テストの内容は、各課の漢字音声テストと重なっているため、今回の分析対象とはしない。

テスト問題の形式は、以下の<例>のように、まず音声で漢字語彙を含む文を聞かせたあと、それについての質問を聞かせ、その答えに使われるはずの漢字語彙を選択させるというものである。

<例> 音声で文とそれに続く質問を聞いて、その答えに使われる言葉を選びなさい。

♪ 問題文：お盆の時期はキセイする人が多い。

♪ 質問：何をする人が多いですか。

選択肢： a. 気象    b. 希少     c. 帰省    d. 規制

調査協力者は、「補講漢字6-1A」クラス、「総合漢字6A」クラス、「補講漢字8A」クラスを受講生のうち、途中欠席した者を除き、3回の漢字音声テストを全て受けた36名であったが、韓国の学生は総合漢字6Aにいた1名のみであったため対象から外し、表3のように中級者26名、上級者9名、合計35名を分析対象とした。

表3 調査協力クラスを受講者数内訳

	非漢字圏	漢字圏	合計
2016 春補講漢字6-1A (IKB vol.1 中級後半)	1名	8名	9名
2016 春総合漢字6A (IKB vol.1 中級後半)	11名	6名	17名
2016 春補講漢字8A (IKB vol.2 上級)	4名	5名	9名
合計	16名	19名	35名

非漢字圏16名の内訳は、ロシア6名、ドイツ3名、ウクライナ2名、メキシコ2名、ブルガリア1名、クロアチア1名、カザフスタン1名であった。漢字圏19名の内訳は、中国13名、台湾5名、香港1名であった。

#### 4.2 中級後半レベルの漢字音声テスト

中級後半の漢字クラスでは、使用教材IKB1の8課と9課の学習漢字語彙を使って、漢字音声テストを各課10問(10点満点)作成し、各課の小テスト時に実施した。この

漢字音声テストは、通常用の紙による漢字小テスト（30点満点）に先んじて行われた。両方のテストで使用される漢字語彙は、課ごとにできるだけ重なるように作成されたが、テストの実施形態も条件も異なるため、結果を比較することはせず、漢字音声テストの結果のみを考察する。

IKB 1 の 8 課の漢字音声テストの全体の結果を表 4 にまとめる。8-3、8-6、8-7、8-9 の 4 問が正答率が低くなっており、その他の問題はよくできていることがわかる。

表 4 IKB 1 - 8 課の漢字音声テストの結果（中級後半 26 名）

問題・正答	選択肢b	選択肢c	選択肢d	正答率			選択肢b			選択肢c			選択肢d		
				全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非
8-1. 素質	要素	素養	質素	96%	93%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	7%	0%
8-2. 負傷	不詳	不精	負症	84%	100%	66%	0%	0%	0%	8%	0%	17%	8%	0%	17%
8-3. 著名	署名	長明	照明	69%	72%	66%	19%	21%	17%	0%	0%	0%	12%	7%	17%
8-4. 信頼	信用	心労	心療	96%	93%	100%	4%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
8-5. 汚職	横領	横行	汚辱	80%	79%	83%	12%	7%	17%	8%	14%	0%	0%	0%	0%
8-6. 志望	死亡	司法	希望	65%	86%	42%	27%	0%	58%	0%	0%	0%	8%	14%	0%
8-7. 神経	信仰	心系	真剣	61%	29%	100%	8%	14%	0%	4%	7%	0%	27%	50%	0%
8-8. 優秀	有能	有終	優等	92%	100%	83%	0%	0%	0%	8%	0%	17%	0%	0%	0%
8-9. 盛会	盛大	精界	精解	61%	64%	58%	31%	36%	26%	4%	0%	8%	4%	0%	8%
8-10. 印象	映像	引率	印章	85%	100%	67%	15%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

漢字圏の 14 名と非漢字圏の 12 名の正答率をみると、漢字圏にとって難しい問題と、非漢字圏にとって難しい問題が異なる場合があることがわかる。以下の問題例では、表 4 に合わせて正解を最初の選択肢としているが、実際のテストの際には選択肢の並び順を適当に配置した。

非漢字圏学習者にとっては、以下の 8-2 「負傷」（非漢字圏の正答率 66%）、8-6 「志望」（42%）、8-10 「印象」（67%）の問題が難しいという結果になっているが、これらは漢字圏学習者にとっては易しい問題（漢字圏の正答率は 100%、87%、100%）であった。

- 8-2 ♪ 問題文：事故でフショウして、入院した。  
 ♪ 質問：入院した理由は何ですか。  
 選択肢：  a. 負傷    b. 不精    c. 不詳    d. 負症
- 8-6 ♪ 問題文：面接官にシボウの理由を聞かれた。  
 ♪ 質問：何の理由を聞かれましたか。  
 選択肢：  a. 志望    b. 死亡    c. 司法    d. 希望
- 8-10 ♪ 問題文：初めて会ったときのインショウをたずねた。  
 ♪ 質問：何をたずねたのですか。  
 選択肢：  a. 印象    b. 映像    c. 引率    d. 印章

逆に、8-7「神経」(漢字圏の正答率33%)のような問題は、漢字圏にとっては難しい問題であったが、非漢字圏にとっては難しくなかった(非漢字圏の正答率100%)ことがわかる。

8-7 ♪問題文：この仕事はかなりシンケイを使う。

♪ 質問：何を使いますか。

選択肢：  a. 神経    b. 信仰    c. 心系    d. 真剣

8-3「著名」(非漢字圏66%、漢字圏72%)、8-9「盛会」(非漢字圏58%、漢字圏64%)のように、両者にとって難しい問題でも、間違いの理由がそれぞれ異なると考えられる場合がある。8-3「著名」の問題において、漢字圏が選択肢「署名」を選ぶのは類似音の聞き分けに問題があると推測できるのに対して、非漢字圏が「署名」を選ぶのは類似の字形に惑わされている可能性もある。ただし、「照明」を選んでいる場合は、漢字圏でも非漢字圏でも、母音の長短の聞き取りの問題である可能性が高いと言えよう。

8-3 ♪問題文：チョメイな作家のサインをもらいたい。

♪ 質問：どんな作家のサインですか。

選択肢：  a. 著名    b. 署名    c. 長明    d. 照明

8-9「盛会」では、「パーティー」という言葉からの連想で、発音は異なるにもかかわらず「盛大」を選んだ者が両グループとも多かった。

8-9 ♪問題文：資金集めのパーティーはセイカイだった。

♪ 質問：パーティーはどうでしたか。

選択肢：  a. 盛会    b. 盛大    c. 精界    d. 精解

この問題では、同音の選択肢「精界」と「精解」が実在しない語彙であったために役割を果たせなかったとも考えられる。「正解」や「政界」を選択肢としていれば結果が異なった可能性もあろう。

前掲の8-6「志望」のような問題でも、両グループで間違い方が異なっていた。漢字圏は、やはり意味を考えて漢字を思い浮かべるため、「志望」を「希望」と間違えることはあっても、発音は同じだが全く意味の異なる「死亡」を選ぶことはなかった。それに対して、非漢字圏の方は意味がわからない場合、音声だけに頼るために、同じ発音の「死亡」を選んだ者が58%もいた。あるいは、「面接官」の意味が分からなかったために、「シボウ

の理由」の部分だけから「死亡」を選んでしまったことも考えられる。

また、8-10「印象」の問題でも、非漢字圏の間違え方として、「印象」の代わりに選択肢「印像」(33%)を選ぶような、字形の類似による間違いが特徴的であった。

次に、IKB 1の9課の漢字音声テストの結果を表5に示す。清音と濁音の違いや長母音と短母音の違いによる間違いが若干みられたものの、8課のテストに比べると、全体的に出来がよかった。

表5 IKB 1-9課の漢字音声テストの結果(26名)

問題・正答	選択肢b	選択肢c	選択肢d	正答率			選択肢b			選択肢c			選択肢d		
				全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非
9-1. 登場	途場	途上	登上	88%	86%	92%	4%	0%	8%	8%	14%	0%	0%	0%	0%
9-2. 観測	完測	完察	観察	88%	79%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	12%	21%	0%
9-3. 弾圧	団圧	単圧	端圧	77%	71%	83%	8%	0%	17%	0%	0%	0%	15%	29%	0%
9-4. 改革	開画	開発	改良	77%	93%	58%	0%	0%	0%	12%	0%	25%	8%	7%	8%
9-5. 納得	説得	能得	難得	96%	93%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	7%	0%
9-6. 贈答	相当	増当	送答	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
9-7. 勤務	通勤	常勤	専務	96%	100%	92%	4%	0%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
9-8. 混雑	困難	乱雑	混乱	88%	93%	83%	0%	0%	8%	4%	0%	8%	4%	7%	0%
9-9. 組織	総織	知識	相識	88%	93%	83%	4%	7%	0%	4%	0%	8%	4%	0%	8%
9-10. 目撃	黙撃	猛撃	眼撃	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

表5で漢字圏の14名と非漢字圏の12名の正答率をみると、両者にとって難しかった問題は、9-3「弾圧」(漢字圏71%、非漢字圏83%)のみである。

9-3 ♪問題文：宗教的にダンアツを受けた人々を救う必要がある。

♪ 質問：宗教的に何を受けた人々を救うのですか。

選択肢：  a. 弾圧    b. 団圧    c. 単圧    d. 端圧

漢字圏では「端圧」を選んだ者が29%いたのに対して、非漢字圏では「団圧」を選んだ者が17%となっており、間違いの質が異なっていたことがわかる。非漢字圏の方が発音を正しく捉えていたと思われる。

漢字圏にとって難しかった問題としては、9-2「観測」(漢字圏の正答率79%)があり、これは非漢字圏にとっては易しい問題(非漢字圏の正答率は100%)であった。

9-2 ♪問題文：子供の頃の趣味は天体をカンソクすることでした。

♪ 質問：子供の頃の趣味は天体をどうすることでしたか。

選択肢：  a. 観測    b. 完測    c. 完察    d. 観察

漢字圏の誤答は「観察」(21%)であり、発音より意味で選んでいたと考えられる。

非漢字圏学習者にとっては、9-4「改革」(非漢字圏の正答率58%)の問題が難しい

という結果になっているが、これらは漢字圏学習者にとっては易しい問題（漢字圏の正答率は93%）であった。

9-4 ♪問題文：世の中をカイカクしたいという熱意を持つべきだ。

♪ 質問：世の中をどうしたいという熱意を持つのですか。

選択肢：  a. 改革    b. 開画    c. 開発    d. 改良

非漢字圏の誤答は「開発」（25%）と「改良」（8%）であり、ここでは発音ではなく意味で選んでいたと考えられる。

8課と9課の漢字音声テストの結果と、通常漢字読みテストや書きテストの結果を比べると、最初に8課で実施したときには、通常テストの方がよくできている学生と音声テストの方がよくできている学生が半々であったのに対して、次の9課の小テストになると、漢字圏、非漢字圏を問わず、漢字音声テストの方がよくできる学生が増えていた。これは、音声を聞いて漢字語彙を処理するというテスト形式に慣れてきた結果であるように思われる。今回は分析対象としなかった期末テストにおいても、漢字音声テストの出来は良くなっていたことから、このようなテスト形式が、学習者にとって、漢字語彙を音声の方から検索するトレーニングになり得る可能性もあろう。

### 4.3 上級レベルの音声漢字テスト

上級漢字クラスでも、9名の受講生に対して、使用教材『Intermediate Kanji Book vol.2』（凡人社）の8課（経済）と9課（金融）の学習漢字語彙を使って、音声を利用した漢字語彙テストを各課10問（10点満点）作成し、各課の小テスト（30点満点）とともに実施した。その結果を以下の表6に示す。

表6 IKB 2- 8課・9課の漢字音声テストの結果（9名）

問題・正答					正答率			選択肢b			選択肢c			選択肢d		
	選択肢b	選択肢c	選択肢d	全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非	全体	漢字圏	非	
8-1. 安逸	安逸	容易	容意	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
8-2. 破滅	破裂	破綻	破壞	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
8-3. 負債	不債	不財	負財	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
8-4. 混乱	混乱	根迷	根乱	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
8-5. 処分	処方	処置	処分	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
8-6. 抑制	抑止	抑留	抑圧	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
8-7. 停滞	低滞	渋滞	沈滞	67%	50%	80%	33%	50%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
8-8. 過労	勤勞	疲勞	徒勞	89%	75%	100%	0%	0%	0%	11%	24%	0%	0%	0%	0%	
8-9. 光景	風景	背景	後景	78%	75%	80%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	22%	25%	11%	
8-10. 融資	融空	雄姿	雄管	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
9-1. 蓄積	貯蓄	備蓄	蓄績	89%	100%	75%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	11%	100%	25%	
9-2. 差別	細別	區別	再別	89%	100%	75%	11%	100%	25%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	
9-3. 監視	監督	關心	管理	100%	100%	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	
9-4. 兆候	調光	子兆	前兆	100%	100%	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	
9-5. 締結	摺結	定決	停決	89%	100%	75%	0%	100%	0%	11%	100%	25%	0%	100%	0%	
9-6. 破損	損壞	損失	破壞	100%	100%	100%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	
9-7. 消息	生滅	生息	消滅	89%	100%	75%	0%	100%	0%	0%	100%	0%	11%	100%	25%	
9-8. 献身	檢診	貢獻	功檢	100%	100%	100%	0%	100%	0%	4%	100%	0%	0%	100%	0%	
9-9. 貯蔵	備蓄	微増	貯蓄	100%	100%	100%	0%	100%	0%	4%	100%	0%	0%	100%	0%	
9-10. 調節	調製	調整	調理	100%	100%	100%	0%	100%	0%	4%	100%	0%	0%	100%	0%	

表6が示すように、上級クラスにおいては、平均正答率が100%の問題が多く、今回のような学習したばかりの漢字を使った漢字音声テストでは易しすぎるということがわかった。

その中で全体の正答率が低かった問題として、以下に8-7「停滞」と8-9「光景」の問題を挙げる。

8-7 ♪ 問題文：この長雨は、梅雨前線のテイタイによるものだ。

♪ 質問：長雨の原因は、梅雨前線がどうしたからですか。

選択肢：  a. 停滞    b. 低滞    c. 渋滞    d. 沈滞

8-9 ♪ 問題文：窓の外に広がっているコウケイに目を奪われた。

♪ 質問：何に目を奪われたのですか。

選択肢：  a. 光景    b. 風景    c. 背景    d. 後景

8-7「停滞」の問題では、漢字圏も非漢字圏も誤答として「低滞」しかなく、これが発音によるものか、字形を間違えたのかは判断できない。ただ、8-9「光景」の問題でも、漢字圏、非漢字圏の両方に「後景」の誤答が見られたことから、上級レベルにおいては、非漢字圏でも、字形より発音からの推測による誤答であると判断する方が妥当であろう。

9課の漢字音声テストでは、漢字圏は全問正解しており、非漢字圏も間違えたのは1名のみであったことから、天井効果を生じていたと判断できる。したがって、上級者向けの漢字力診断のためには、既習語彙以外の漢字語彙を使ったテストを考える必要があると思われる。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では、2013年に実施した、国内外の漢字圏学習者、非漢字圏学習者等を対象に行った中級漢字力診断テストの結果を分析し、それを参考に、漢字語彙の意味用法問題を音声を使って漢字語彙を選ばせるタイプの漢字音声テストを中上級者向けに作成し、実施した報告を行った。

しかしながら、中級後半クラスと上級クラス合わせても35名という限られた数の学習者であり、また韓国の学生は1名しかいなかったため、分析対象には入れなかったことから、2013年の調査結果と比べると十分なデータであったとは言えない。また、今回実施された漢字音声テストの問題は、通常用の紙で行われた漢字小テストや期末テストで使用された漢字語彙とあえて重ねるように作成されたため、すべて既習語彙であったところが前の調査とは異なる。特に上級クラスにおいては、天井効果を生じていた可能

性が高く、また受講者数も少なかったため、漢字圏・非漢字圏の比較にも十分ではなかったが、通常の紙による小テストや期末テストの結果と比べると、以下のような点が指摘できると思われる。

- 1) 通常の既習漢字の小テスト・テストでは、読み・書き・意味・用法のうち、漢字圏では主に読みの正確さ（特に子音の清濁、母音の長短など）、非漢字圏では字形の正確さ、漢字圏・非漢字圏の両方で意味用法の正確さが確認できるのに対して、漢字音声テストでは音声聴取と漢字表記との連合の状況が見られるという特徴がある
- 2) 漢字音声テストでは、8課より9課、さらに期末テストと、回を重ねるごとに新形式に慣れ、音声を有効に使えるようになる傾向が見られた
- 3) 漢字音声テストでは、選択肢に音声の似ているものが多く含まれる問題の正答率が低くなるため、誤答例を集めて選択肢を改善することにより、さらにテストの精度を上げることができよう

中級後半レベルにおいては、漢字圏、非漢字圏それぞれに特徴のある解答行動が見られ、一定の成果をあげたが、上級レベルにおいては、既習漢字を使ったテストでは、回を重ねるうちに学習効果が現れ、天井効果が生じるため、診断テスト用には未習語彙やさらに難しい文脈を使ったテスト問題の作成が必要であろう。一方、音声による漢字語彙処理が苦手と思われる漢字圏学習者には、このような漢字音声テストの実施によって、学習方法が改善され、弱点を克服できるようになる可能性も考えられる。

今後、さらに調査協力者数を増やして量的分析を行うとともに、テスト項目ごとの質的分析も進めていきたい。また、フォローアップインタビュー等を行う必要があると思われる。今回の結果を踏まえ、今後は、未習語彙を使用した漢字音声テストを授業開始前の事前チェックテストとして作成、実施することを考えたい。

※この研究は、平成28年度科学研究費補助金基盤研究(B)「日本語の漢字力評価の方法に関する研究」(研究課題番号:15H03214)からの助成を受けている。また、本論文は、2016年度日本語教育学会秋季大会においてポスター発表した内容に加筆修正を加えたものである。

## 注

1. 漢字力診断テストとは、漢字の読み書きの力だけでなく、字形認識、意味理解、漢字語の語構成、文脈による用法、品詞性、送りがな、音読みの力、音声による漢字処理の力などを12の項目でチェックし、その診断結果を学習者にフィードバックするためのものである。その原型である紙版の漢字力診断テストは、加納ほか(1993)に掲載されているが、その後、初級レベル用の漢字力診断テストも作成され(加納・酒井

2003)、WEB版テストとして改訂されて(加納 2008)、現在は TTBJ (筑波日本語テスト集)の中で公開されている。詳しくは、加納・魏(2014)、村上ほか(2013)、酒井・加納・小林(2015)を参照のこと。

2. 漢字力診断テストは、2013年2月～3月に日本国内の学習者を対象に実施された Can-do statements 調査、および2013年6月～10月に海外の学習者を対象に実施された Can-do statements 調査と併せて、初級用と中級用が実施されたものであるが、過去に発表された論文では Can-do statements 調査の分析が中心であり、中級漢字力診断テストの結果についての分析・考察は本論文が初めてである。
3. 調査1と同時に実施された Can-do statements 調査の結果については加納(2014)に、調査2と同時に実施された Can-do statements 調査の結果については加納・魏(2015)に報告されている。また、両調査においては、調査協力者の日本語の漢字語彙運用力をみるために WEB 版漢字 SPOT50 も同時に実施された。調査1では、調査協力者は初級と中級の2つのテストを同時期に受験したが、本稿で分析対象としたのは中級漢字力診断テストの結果のみである。また、調査2では、海外の学習者の受験負担を軽減するため、WEBテスト開始の最初にレベル振り分けテスト10問を出題し、結果が70%以上の者は中級漢字力診断テストを、それ以外の者は初級漢字力診断テストを受けるように設定した。本稿で分析対象としたのは、中級テストを受験した者のみである。
4. 漢字 SPOT テストとは、自然な速度で読み上げられる音声聞きながら、与えられた文中の漢字語彙の部分の空欄に、漢字を1字選択して入れるという形式のテストである。小林らにより開発された SPOT テストの形式を利用して、漢字語彙の運用力を測るテストとして開発された(加納 2009)。現在、TTBJ (筑波日本語テスト集)の中で漢字 SPOT50 という50問からなるテストが公開されている。

## 参考文献

- 酒井たか子・加納千恵子・小林典子(2015)「第5章 TTBJ (Tsukuba Test-Battery of Japanese)」李在鎬編『日本語教育のための言語テストガイドブック』くろしお出版、pp.86-109.
- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智(1993)『Intermediate Kanji Book』vol.1、凡人社
- 加納千恵子・酒井たか子(2003)「漢字処理能力測定テストの開発」筑波大学 留学生センター『日本語教育論集』18号、pp.59-80.
- 加納千恵子(2008)「レベル別漢字語彙処理能力テストの問題形式 – WEB 漢字テストのマルチレベル化に向けて–」筑波大学留学生センター『日本語教育論集』23号、

pp.1-13.

加納千恵子 (2009) 「漢字語彙の音声処理能力を探る -漢字 SPOT の開発と 課題-」  
筑波大学留学生センター『日本語教育論集』24号、pp.1-17.

加納千恵子 (2010) 「コラム3 漢字力の評価法 -知識と運用力の評価-」「コラム4  
漢字テストの作り方 -語彙のテストとして-」濱川祐紀代編『日本語教師のため  
の実践・漢字指導』くろしお出版、pp.180-189.

加納千恵子 (2014) 「漢字に関する Can-do Statements 調査から見えてくるもの -漢字  
の知識と運用力についての学習者意識-」筑波大学留学生センター『日本語教育論集』  
29号、pp.71-92.

加納千恵子・魏娜 (2014) 「外国人日本語学習者の漢字力の評価について -TTBJ(筑  
波日本語テスト集)を利用して-」『JSL 漢字学習研究会誌』6号、pp.54-62.

加納千恵子・魏娜 (2015) 「学習者による漢字力評価について -Can-do Statements  
による漢字力意識調査から-」筑波大学留学生センター『日本語教育論集』30号、  
pp.35-53.

加納千恵子 (2016) 「学習者による漢字力の自己評価について -漢字クラスのレベルに  
よる Can-do statements 調査結果の違い-」筑波大学グローバルコミュニケーショ  
ン教育センター『日本語教育論集』31号、pp.95-106.

村上京子・加納千恵子・衣川隆生・小林典子・酒井たか子／関正昭・平高史也編 (2013)  
『日本語教育叢書<つくる> テストを作る』スリーエーネットワーク

Nation, I. S. P. (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge  
University Press.